

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第607号 平成25年9月5日

## 返済不能？

財務省は8月9日、国債や借入金、政府短期証券を合わせた「国の借金」の残高が、2013年6月末時点で1000兆円を突破し、1000兆6281億円となったと発表しました（8月10日付北海道新聞他）。

前年度末（本年3月末）時点と比べると約17兆円増えており、総務省の人口推計（7月1日現在1億2735万人）を基に計算すると、国民1人当たり約792万円の借金を抱えている事になるそうです。

我が家は現在2人暮らしですから、2人で約1600万円もの借金という計算です。

「日本の借金時計」というのをご覧になった方はいますか？これは経済シンクタンク「HARVEYROAD JAPAN」が制作しているものですが、僅か1分半足らずで1億円ずつ借金の額が膨らんで行く様子を見ていると、気持ちが悪くなりますし、これから先日本はどうなるのだろうと、どんどん不安になってしまいます。皆さんも、試しに一度ご覧いただきたいと思います。

1000兆円という金額は天文学的で、全く想像も出来ませんが、国民総生産（GDP）が約470兆円余りですから、国はGDPの倍以上もの借金を抱えている事になります。

自分が直接借金をしている訳ではありませんので、現実感がないのは仕方ありませんが、しかし、最後は国民の税金で処理しなければならない以上、その膨大な借金の付けは、結局のところ我々国民が背負わされているのだと認識して置くべきでしょう。

さて、国の借金といっても、国債の発行による長期債務だけではありません。そこで、1000兆円の内訳を見て置くことにします。

まず、国債が830兆4527億円と過去最大の規模に達しています。

次に、金融機関からの借入金が54兆8071億円、一時的な資金不足を補う為に発行する短期証券123兆3683億円という事ですが、この膨大な借金は、一体返済可能なのでしょうか。

現在の国の予算を見ると、約92兆円の予算の内半分は借金で賄われています。つまり、借金をしなければ借りたお金を返す事が出来ないのが現実なのです。借金

しながら借金を返す、まるで自転車操業状態ですね。

こうした状況を放置すれば、その付けは全て私達の子や孫の世代に付け回される事になります。

この危機的な状況から脱する為には、景気浮揚策を講じて税収のアップを図る一方、徹底した行財政改革に取り組むという、大変難しい舵取りをしなければなりません。

現在政府においては、「アベノミクス」といわれる金融・経済対策によって景気浮揚を図る一方、税と社会保障の一体改革に取り組もうとしています。この改革は、消費税増税や社会保障に係る負担の増をもたらしますが、国民の多くは、持続可能で安定した社会保障システムを構築する為には一定の負担増加は止むを得ないと考えていると思います。

こうした中で、来年度の予算編成に向けた各省庁の概算要求額が99兆2000億円と過去最大の額に膨らんでいるというのは、どういう事でしょうか。省庁の縦割りを超えて予算を重点配分する「特別枠」は、各省庁の分捕り合戦になっています。今や、行財政改革という旗印はどこかに置き忘れてしまった感があります。

各省庁の、要求できるものは何でも要求するという、省益を追求し、後先を考えない「それいけどんどん」という発想は、亡国の振る舞いといわざるを得ません。

政府は、消費税増税に関して有識者の意見を聞いています。有識者は消費税増税に賛成の方が多いようです。政府はそうした専門家の意見を参考に方針を決める事になるのかも知れません。ただ、申し上げて置きたい事は、行財再改革や景気浮揚対策、そして医療・福祉の改革という難しい課題に政府は本気で取り組もうとしているのか、それとも口先だけの方便なのかを見極めようとする、声なき多くの国民の存在を、政府は決して忘れてはならないという事です。（塾頭：吉田 洋一）